

卵管は、子宮の左右に卵巣とともに存在する、長さ約10cm程度の管状の臓器です。子宮本体とは卵管子宮口でつながり、精子の通過路、卵子の吸い上げ、受精の場、受精卵の育成と輸送、子宮環境への影響など重要な役割を果たしています。卵管性不妊は、女性不妊症の中で最も頻度が高く、全体の30-40%と報告されています。

卵管性不妊は、膣から腹腔内への上行性感染、子宮内膜症、腹腔内手術などが原因となります。これらは卵管外側と内側の癒着を引き起こし、卵管機能の阻害となります。感染症の原因菌としてクラミジア感染症が重要で、近年では10代から20代前半での発症率が増加しています。妊娠年齢の高齢化に伴い、感染症による卵管閉塞の慢性化と、子宮内膜症による癒着の増加による卵管性不妊の増加が懸念されています。

卵管の通過性を検査することは、不妊治療の中では不可欠であり、比較的早期に行われます。方法として経膣超音波下卵管通水法、子宮鏡下選択的卵管通水検査法、卵管造影検査があります。これらの卵管通過性検査を行うことによって、卵管の閉塞・狭窄などの評価を行うと同時に、卵管の通過性が回復する場合があります。検査後に妊娠に至る症例が一定の割合で存在します。